

全道展機関紙 "ZEN" 第5号 昭和55年10月31日発行
 発行所 全道美術協会 事務局 〒061-12 札幌市南区澄川6条12丁目
 渡会純价方 T 011 (581) 2528
 印刷 中西印刷株式会社 011 (781) 7501
 編集委員 伊藤 寿朗 岸本 裕躬 斎藤 洪人
 坂口 清一 山口 慶市 佐藤 順

全道展機関紙

NO. 5

35周年記念 全道展

盛大に終わる

入場者は
一万人を突破

と厳しい状況を余儀なくされた。

入選点数は、昨年より若干増えたものの、部門とならず、入選率13%という閑門となつた。

今年の審査は、永年行われてきた総合審査



35周年記念として、内外から注目を浴びて開催された全道展は、期待を損ねず盛大に終えることが出来たのは誠に喜ばしく、厚く御礼を申し上げる次第です。事前のPRも行届いたこともあれば、とりわけ各報道機関が全て取材してくれたことが、大きな反響を生んだものと思われます。搬入点数にも現われ、昨年を大幅に上回る一、六一二点となり、出品者にとっては一段

可能となり、今年は若干の二段掛けをみた。現状の会場では、壁面の確保が一番難題となつてゐるだけに、会場の構成にあたつては参考を要しょう。

会期中に催された35周年記念パーティーは、八月三十日札幌ロイヤルホテルで、数多くの来賓を交え二百数十名の出席者のもとで、華々しく行われた。用意された二次会場のゼン・トラベルパークにも百名近くが集い、記念行事を盛り上げていた。

今回の授賞式は道立近代美術館の講堂で行われ、多勢の観客の見守る中で、受賞者達は舞台で仰々しく表彰を受け、自己紹介された。

統いて講演があり、美術評論家の匠秀夫氏の「35周年記念全道展をみて」と題して、現代美術界の現状下での全道展のもつ資質、そして作風に鋭い洞察を加えた話に、場内は静かに聞き入つていた。その後、「本郷新を語る」と本田明二氏の淡々とした語りには、とも故人になられたとは思えぬ感慨があり、引きつづいての映画「創る」(本郷新の世界)を観て、故人の大きさを新らにした。

から25日まで大同ギャラリーで陳列された。記念行事として、受賞者招待展が10月20日が、本展の興奮をそのままに競い合つた。 (事務局 渡会純价)

○35周年記念展搬入・入選点数

搬入点数	入選点数
一、〇七九点	一〇四点
四一点	三點
二一〇点	二四点
一二二点	三一点
一六一点	四〇点
四〇点	二〇二点
一、六一二点	二〇二点

○全道展地区委員会が正式に結成されました

- ・札幌地区委員会(石狩、後志、南空知管内)
担当会員 渡会純价氏(事務局兼任)
- ・函館地区委員会(渡島、檜山管内)
担当会員 折原久左エ門氏
- ・旭川地区委員会(上川、留萌、宗谷、北空知管内)
担当会員 高橋三加子氏
- ・日胆地区委員会(胆振、日高管内)
担当会員 遠藤未満氏
- ・釧路地区委員会(釧路、根室、十勝、網走管内)
担当会員 斎藤一明氏
- ・東京地区委員会(東京周辺全般)
担当会員 渡辺真利氏

来年の第三十六回全道展の会期は、六月下旬から七月上旬になることが、美術館側との協議で予定されてますので、ご承知おき下さい。

私は現在十年ほど本州の方に住んでいますが、本来は札幌育った純然たるダンスコであります。今度35周年の全道展があると言うので道新より招かれまして、二十八日の初日にして見えたところです。本来ならもつといていねに見るべき所、皆様に充分納得の行くような感想にならぬかもせんし、非常に雑薄だと思いませんが、多少の印象をお話ししたいと思います。

昭和20年というこの敗戦の痛手の混迷期、この單に今まで戦争に敗けた事がなかった初体験という事もありながら、その後の非常な生活の困難な状況の中では、芸術をなどというわけには行かなかつたのです。

その最中にあって全道展というものは、もうその年の後半から結成の動きが見えていた事は、非常に早いスタートであったし、又、その動きも画家自身の手で行なわれていたといふ事と、北海道には大正十四年に結成された道展という古い団体もあつたのですから、最初のスタートが全道展の団体の形で結成されたのは貴重な時期だったといえます。規模的に考えてみても、大むね北海道が対象ですから、全国的に見ても現在のところ県を単位にした県展があり活動が活発化して来ていますけれども、北海道という地域は非常に広いですから本州とは広さにおいて格段の違いがあります。地方展といった意味でいきますと県展の規模ではないかと思うのです。しかし、地方展と考えても、一つはその歴史の古さということ、もう一つは純粹に画家の自分達の活動によつて、つまり民間的ななるサイドで運営が行なわれて歴史を重ねてきたことは、そうザラにないですね。在地の人達が自力で育て上げて来た例はめずらしい。例えば、私の居る神奈川県にも県展が

あります。それが上野の団体をみてもその増加が著しいとはいへ、これより多い会があり、それに関与する、どちらかと言えばその役所がリードして美術家がついて行く形が割合多い。それから民間サイドと言いますが、少しあれば全道展の場合もそうですが、北海道新聞社が主催援助しているといいまして、それはあくまで応援であつて主体は全道展、画家達が主体になつておりますが、審査でも画家のみというよりは二、三の評論家等に依頼される場合が多いようです。

すべて自前で運営し、審査し育てられ、新聞社が応援するという形態の全道展は、全国的に見ても少ないと思います。その点

で35年の歴史を重ねて来たのは誇るに足る点だと思いますし、もう一つ私が来て愉快だったことは、従来の公的な賞を返上し、主催側のみの賞にして、美術家自身の団体であることを明確にしたことです。ですから当然自分達の協会賞が最高であつて、自力運営を示す意味で筋を通した事はよい

記念講演 35周年記念 全道展をみて 評論家 匠秀夫

り、例えば上野の団体をみてもその増加が著しいとはいへ、これより多い会があり、それに関与する、どちらかと言えばその役所がリードして美術家がついて行く形が割合多い。それから民間サイドと言いますが、少しあれば全道展の場合もそうですが、北海道新聞社が主催援助しているといいまして、それはあくまで応援であつて主体は全道展、画家達が主体になつておりますが、審査でも画家のみというよりは二、三の評論家等に依頼される場合が多いようです。

すべて自前で運営し、審査し育てられ、新聞社が応援するという形態の全道展は、全国的に見ても少ないと思います。その点

で頂きますが、今年の展覧会は一、二〇〇点程の中から二〇〇点位の入選があつたとすると相当の敵選であったでしょうが、会場を見て率直な印象で言いますと会場の広さからするとまだ敵選が必要な状態なの

で頂きますが、今年の展覧会は一、二〇〇点程の中から二〇〇点位の入選があつたとすると相当の敵選であったでしょうが、会場を見て率直な印象で言いますと会場の広さからするとまだ敵選が必要な状態なの

ではないかと思われる陳列を感じました。全体的に油絵が多く、全道展の顔はやはり油絵になつてますが、必ずしもこの油絵が顔としてはすっきりしないものがある。先づ、色彩の点で例えば絵具の色に消化していないナマの色、きたない色が目立ち、油絵具の特質や性能がまだまだ理解され消耗して出し切れている作品が少ないと思いますが、一つに会の専門家意識による敵然たるそこで、このようにして歴史的にも運営的にもユニークな会として35年の育成と成るため原色を使うことがあります。例えばフォービスマのような色彩使用で、この場合フォービスマの画家達の原色の使い方を見てもナマの色でなくして、絵画作品化された、こなしきつた「色」になつてゐる。

全道展の入選作には、こうしたこなれた色

ZEN

更にもう一つ気になつたことは、全体的に具象絵画が多いと言うことで、かつては全道展も抽象画が非常に多い時期がありました。その頃より大きな移り変りがあると思う。一寸、見渡しても会員から一般までの作品の中で抽象作品は二〇点もなかつたよう思います。抽象画が少くなつたことは大きな変遷ですが、考えてみるとかつて多かつた事の方がおかしいのであって、あの時流にのつた不和雷同のにせもの抽象が氾濫していただけであつて、抽象画は必ずしも安易なものではなく、具象画のような具体的モチーフに頼ることなく、結局は自分の感性と知性にたよつてのみ作画となる当然の厳しさが要求されるのです。だから、この厳しい道を通つて行く作家が少くなくなることの方が自然であつて、抽象画氾濫は異常であったのだと思います。

会場を見た限りでは、そのような状況の中で描いているのだからそれなりの筋が通つているように考えてますが、むしろ具象絵画の方に問題が潜んでいるように思われます。

す。この中村つねは非常に思索的な人でして、「表現難」という題の感想文に、「画家よ、まず語るべき思想を持て。その思想に絵画の秩序を与えよ。表現手法の困難は常に思想の混沌を原因とする。明瞭なる感情と心象とは常に明快なる色調と線条をもって画家の手を導くものである。」という書簡を残しています。この人は、肺病と闘いながら初めはルノアールに始まり、セザンヌ、キュビズムとだんだん研究を重ねて行き、自分の絵画をつくったり壊したりして苦闘して死んだのですが、この言葉のように、ただ單なる写実画の具象画面でなく、どうしても画家の主観的感情を表現したいという、自然や人間などはそのための材料にすぎないとそういうことになつて



匠秀夫氏

うものが自ら匂つてくるものであり、だか
ら意識しなくても出て来るもので、人間を意
識することによってなし得る問題だ」とい
うのでした。これが、いわゆるローカルカ
ラー論争と言われるもので、この事は北
海道についても言えることです。北海道の
画家らしい絵を描くべきとか、いや何も強
く意識しなくとも、そこで生活し、その中
で制作すれば自ら北海道的なものが匂い立
つのであって個性の發揮の方が大切なだけ
というような方向もあるわけです。光太郎
と石井のローカルカラー論争は、各々の地
域についても言えると思う。こうして、今回
の会場の作品を見ても、必しもこれらの意
識で描いていない人も多いと思いますが、

した。具象的作品は、昔と異り写生写実ではなく足りないところにより画家の主観で自分の考えを材料にたくして描こうとする。そうすると、それをより客観的にも構成する必要が生れ、その構成力の強弱が一番問題となります。この画家はどうしてこのように表現して構成したのかの問題となると、その構成によって自分の主觀を感情移入して表現したいということで、そこで一つの表現主義的な行き方になるわけです。が、これは實際には容易ではない。そうするとこの構成力によってその絵は見れるか見れないかになってしまいます。

だいぶん前に死んだ人ですが、エロシエントコ氏像という、現在、重要文化財になつてある中村つねという画家の油絵がありま

くるわけです。そらするとますますもってこの言葉は即ち、明哲なる画家の知性と感性がその絵の構成力を左右するようになります。

もう一つは、一般的に言えることです。が、観察力、つまり、自分の絵をつらつらと眺めて感じ取る態度と体験その力量が充分でないようと思われる絵が多く目にについたことです。

それは、何によるかを考えると、例えれば明治の日本に、東京美術学校はあったが、國の美術館がなかった。だから学生は西洋画を見ていないので授業の話や先生の絵を見ての觀賞経験がなかった。どうしても先生と同じ絵を描くだけになっていた。従つて西洋に行って現場に接することとの修業は、重要な必修条件であった。又、明治時代は外国に行く場合でも、黒田清輝の先生であったフランス人のラファエル・クラランの所へ勉強に行き、またこれに対する立的な民間の太平洋画会で勉強した人達は、ジャン・ボール・ローランスの所に勉強を行ったが、そのように先生の先生のみの系統でだけに片寄つていたから、マンネリズムが起つた。大正時代になると、西洋で自分の先生を自由に選んで勉強して帰つてくるといふ留学が始まり、自由研究と自由な風氣ができる油絵の個性ある作品がふえ、明治時代と差ができた。こうなつてくると、自分の作品をつらつら眺め、他の作品も眺めるということの体験は、実は自分の制作にとって非常に大きなプラスになると思われるのですが、そういった意味で、全道展の場合、充分でないと思われる作品が見受けられたわけです。これはなぜかと言いますと、やはり広大な北海道という土地がそうさせているのではないか、札幌の人は、美術館がありよいですが、他の地域の人達は、このような六七県も入ってしまう広さでは日常の観照体験をしたくもできなうと思います。全道展も各地よりの出品者

が多く、見たくても見られぬ人々達が絵画に対する情熱を持ってめくらめっぽうに強烈に描いてしまふ人も出てくるのではないかと思います。ですから、その意味で、全道展が単なる団体でなくもと大きな文化団体としての役割をしようとする動きを結成時代から持つていて、その一つの表われとして巡回展があり、地方の人々に大きな刺戟を与えていきます。この美術団体が啓蒙的活動を統治しているのは重要であると思います。全道展の行き方は古い由緒ある団体とは思うが、現実では必ずしも作品を無条件で手ばなしで喜ぶんでもいいのではありませんが、あくまでも作家は個人ですから、あくまでも個人の孤独に徹して自分の作品をいじめることによって向上することだと思います。まもなく札幌三越で開かれます。これは、どういう事かと言うと、作家の生活、活動というのはどうしても、個人の自分との孤独な戦いといつたやはり一種の芸術に対する戦いに迫られているようになります。これが、どういう事かと言ふと、作家の生活、活動というのはどうしても、個人のウエもなくただけてしまい生きている。かえってそのような中で描いて行く事の方がつらいと言っているわけです。

35周年全道展も、意義のある団体であるだけに自分の作品に対する厳しい問い合わせをして、またアマチュアリズムでない専門芸術家への大きなつながりになって行くのではないかと思っております。

あまり的を得ぬことだったようですが、このような印象を感じましたので述べさせてもらいました。

(記念講演の収録データより、抜粋要約しました。文責・編集係)

35周年記念全道展

入選作品評述

求のものとは異質のものである。

初から画面を幾何学的に計画してモチーフを入れて作画したよううに思えるが、中央が繁雑に過ぎ大きさの効果が淡れて残念。堀川敏郎「Silence of Summer I」直線と半円のバックを中心いて平面的なく体をポートのような形で埋める手法は広告によくある手法だが今後立体的に試みて成功か否かこういうタブローは冒険も必要だ。小野司「夏の想い」奨励賞 主題とバックが融合し気張った所が無く色彩も非常に美しい。斜に明暗を割け中心に主題を定めた所が熟練を感じて好きな作品である。佐久間留美子「室内(B)」モデルの描写を比較してバックが平面になり不安定に見える。バックを色彩的にエネルと融合させては如何。今野貴、「Summer of Night」全面的に暗色で統一。夜の黒い中には色彩がある。これは形は出来ているが細かい神経がほしい。一気に書き進むと何も見えなくなる事に初めてを経て浮上して初めて出来る事でこの人の勉強が判然とした作で

安木尚博「アンビパルンツエ」最初から画面を幾何学的に計画してモチーフを入れて作画したよう思えるが中央が繁雑に過ぎ大きさの効果が淡れて残念。堀川勉「Silence of Summer I」直線と半円のバックを中心で埋める手体をポートのような形で埋める手法は広告によくある手法だが今後立体的に試みて成功か否かこういうタブローは冒険も必要だ。小野司「夏の想い」奨励賞 主題と色彩も非常に美しい。斜に明暗を別中心に主題を定めに所が熟練を剐クが融和し気張った所が無く柔軟な表現も非常に美しい。

ある。福井ルカ「二人の男B」横
線斜線と区切るだけで不思議に見

テレパン一が希薄である。

回も情緒深い教会の屏に人物を配して古い街のただすまいをとらえて、らぶ可いから食、こりよへ。

ある。福井ルカ「二人の男B」横線斜線と区切るだけで不思議に見えるがこの秘密は全面無数にある。タッチとヒッカキ絵具の層である。バックと人物の色彩は同様のもので一面的だが人物に立体感を表現してみては如何。石塚絹子「人形の時間」即興的な意図も判るがロマンのみでは絵は成立しない。色彩は平板にすぎ二つの物体の関係を確実に緊密化して追求してみては如何。武田忠子「まどろみ▲」奨励賞 当展は色彩の傾向がグルミーな方向に強いと思うがのびのびとした中にも人間とバックの関係が難しく色彩も苦腦している事が判る作。高橋靖子「並んだ静物A」暗色の色面は美しい、同時に上方と下方の重量に対してもバックの飛んでる色で瓶の孤立を防いでいるがこの表現は安易に陥り易いから両者の関係に一考を促したい。野村武司「青の静物」青一色でまとめて一気に描いているようで楽しそうに見えるが苦しそうにも見える。この画風で行つたら絵は大変な事になる。青色の中に美しい色彩が見えてほしい。佐藤公一「北辺想I」マチエル色彩の関係で緊密な色面の効果が抜群である。黒と白の対比は8-2だが中間色で気を抜いたあたり人々。下部が上の黒色の中に色彩が見えて来たら如何なるものになるか今後がとても楽しみだ。川口サトシ「湖」人物と湖の関係が不明。心象画か人物画か両者からの

ある。福井ルカ「二人の男B」横線斜線と区切るだけで不思議に見えるがこの秘密は全面無数にある。タッチとヒッカキ絵具の層である。バックと人物の色彩は同様のもので一面的だが人物に立体感を表現してみては如何。石塚絹子「人形の時間」即興的な意図も判るがロマンのみでは絵は成立しない。色彩は平板にすぎ二つの物体の関係を確実に緊密化して追求してみては如何。武田忠子「まどろみA」奨励賞 当展は色彩の傾向がグルミーな方向に強いと思うのがびのびとした中にも人間とバックの関係が難しく色彩も苦腦している事が判る作。高橋靖子「並んだ静物A」暗色の色面は美しい、同時に上方と下方の重量に対してもバッカの飛んでる色で瓶の孤立を妨いでいるがこの表現は安易に危

穴あい子「クロースB」大麥達考
な人である。面白い画面全部が一
枚のクロスであるのも面白い狙
い。ここから一步進める（或いは
脱脚する）のがこの次の課題だろ
うか。深田豊正「弾く」独特的のマ
ナエルに平行線を等隔に並べ、更
にその上に同色で機械的に着色し
た。その狙いは画面全体が平面と
してのタブローのなかで音響をう
まく造形化したものと思う。面白い
い。宇佐美薰「作品1」靴や老爺
の仕事場とその仕事がよく出てい
る。暗い色調も効果をあげている。
加藤博「雨上り」この人は雨後の
街景で面白い仕事をしてきた。今

アレバシーが希薄である。
（評）西村貴久子

門馬よ宇子「アーモンドの花咲く頃」奨励賞・新会友 暗いが色々表現したものと思う。大きさ空間、青黒い色調がその効果をあげた。評判がよかつた。小林光人「人間どうし」「人間」人間の現実の一面を暗い人像、ローズが画面全体の調子を纏めた。形もなかなかよく、運筆はのびのびしていた。千葉幸子「ブランコ」ブランコしているかも知れない。坂田武夫「かな子」家庭の三人の群像がよくまとまつた。長いが、筆も色も少し粗っぽいそれがモチーフと合っているかも知れない。

絵、ローズ、ブルーの筆触も面白
い。福島孝寿「ジャングルジム」
案外難しいが、面白いモチーフを
とらえた。特に母親と子供がうま
くとらえられている。着色は大胆
だが深い味わいを感じた。熊谷光
恵「飛翔」鳥は本当に魅力あるモ
チーフである。鳥のいろいろの動作
を組み合わせた群像となつてい
る。よく観察し、よく表現してい
る。色もまとまつた。然し全体の
感じは飛翔でなくて重たくなつて
いないだろうか。〈評〉砂田友治
伊藤勝美「或る状況II」強く訴
えてくるものがある。構成配色が
成功。マチエルに工夫を期待。輪

回も情緒深い教会の屏に人物を配して古い街のただすまいをとらえているが何か少し食いたりないものしさがある。清田操「私はこどかしさがある。」恐怖にとりつかれた自画像か。そういうものが出ているように思う。変っているところが面白い。山本美登里「鎮魂歌」死者への貢歌といった心情の表現だと思う。これはなかなか練達の画面構成である。下に横たわる死者などうまくかけているし、左右の火炎の如きもの、又なかの何かの象徴など凡て効果的だと思った。吉田康子「五つのスペース」五つのスペースに人物群像がうまく纏められた。色も形も単純化されてよく、線なんか面白いと思つた。沢由紀「もう一人の私」自分といろいろな分身を並べて或いは離れてから心地を表現した面白い



絵
画

土井善範「待合室A」 バックと人物が渾然として感覚と技法と一緒に大変握説的に見える。マチエールや色彩を追求した上でこのような結果になるのは素晴らしい。目に激しく来るものと深い迫

宮崎むつ「対象喪失」簡単に見る
とイラストに見られる恐れもある
が黒色が鮮やかな色彩と対して
単純にならない秘訣は黒の立体的
なタッチが因をなして見事な作。
安木尚博「アンビパルンツエ」最
初から画面を幾何学的に計画して
モチーフを入れて作画したように
思えるが中央が繁雑に過ぎ大き
さの効果が淡れて残念。堀川勉
「Silence of Summer I」直線と
半円のバックを中心に平面的な人
体をポートのような形で埋める手
法は広告によくある手法だが今後
立体的に試みて成功か否かこうい
うタプローは冒険も必要だ。小野
司「夏の想い」奨励賞 主題とバ
ックが融和し気張った所が無く色
彩も非常に美しい。斜に明暗を別
け中心に主題を定めた所が熟練を
感じて好きな作品である。佐久間
留美子「室内(B)」モデルの描写に
比較してバックが平面になり不安
定に見える。バックを色彩的にモ
デルと融合させては如何。今野秀
貴「Summer of Night」全面的
に暗色で統一。夜の黒い中には色
彩がある。これは形は出来ている
が細かい神経がほしい。一気に画
き進むと何も見えなくなる事に留
意してほしい。矢下瑛子「夕暮の
室」一見地味に見えるが人形の動
作が見える事は中々だがさり気な
く画くという事は根底に苦痛の時
代を経て浮上して初めて出来る事
でこの人の勉強が判然とした作で
ある。福井玲力「二人の男B」横
線斜線と区切るだけで不思議に見
えるがこの秘密は全面無数にある
タッチとヒッカキ絵具の層であ
る。バックと人物の色彩は同様の
もので一面的だが人物に立体感を
表現してみては如何。石塚絹子
「人形の時間」即興的な意図も判
るがロマンのみでは絵は成立しな
い。色彩は平板にすぎ二つの物体
の関係を確実に緊密化して追求し
てみては如何。武田忠子「まどろ
みA」奨励賞 当展は色彩の傾向
がグルミーな方向に強いと思うが
のびのびとした中にも人間とバ
ックの関係が難しく色彩も苦腦して
いる事が判る作。高橋靖子「並ん
だ静物(A)」暗色の色面は美しい、
同時に上方と下方の重量に対して
バックの飛んでる色で瓶の孤立を防
いでいるがこの表現は安易に陥
り易いから両者の関係に一考を促
したい。野村武司「青の静物」青
絵は大変な事になる。青色の中に
一色でまとめて一気に描いているよ
うで楽しそうに見えるが苦しそう
にも見える。この画風で行つたら
でもある。黒と白の対比は8-2だ
藤公一「北邊想(I)」マチエル色彩
の関係で緊密な色面の効果が抜群
である。黒と白の対比は8-2だ
が中間色で氣を抜いたあたり中
々。下部が上の黒色の中にも色彩が
見えて来たら如何なるものになる
か今後がとても楽しみだ。川口サ
トシ「湖」人物と湖の関係が不
明。心象画か人物画か両者からの

沢あい子「クロースB」 大変達者な人である。面白い画面全部が一枚のクロスであるのも面白い。狙い。ここから一步進める（或いは脱脚する）のがこの次の課題だろうか。深田豊正「弾く」独特的のマチエールに平行線を等隔に並べ、更にその上に同色で機械的に着色した。その狙いは画面全体が平面としてのタブローのなかで音響をうまく造形化したものと思う。面白い。宇佐美薰「作品1」靴や老爺の仕事場とその仕事がよく出ている。暗い色調も効果をあげている。加藤博「雨上り」この人は雨後の街景で面白い仕事をしてきた。今

テレバシーが希薄である。
門馬よ宇子「アーモンドの花咲く頃」奨励賞・新会友
はきれい。風景の空間がかけている。評判がよかった。小林光人
「人間」人間の現実の一面を暗い色で表現したものと思う。大きな
空間、青黒い色調がその効果をあげた。藤田博子「人間どうし」
人像、ローズが画面全体の調子を纏めた。形もなかなかよく、運筆
はのびのびしていた。千葉幸子「ブランコ」「ブランコ」している
物像の組み合わせが躍動的で面白かった。長い作画経験で色も明るく美しいが
少々食い足りない感じもある。坂田武夫「かな子」家庭の
三人の群像がよくまとまつた。長い

絵、ローズ、ブルーの筆触も面白
い。福島孝寿「ジャングルジム」
案外難しいが、面白いモチーフを
とらえた。特に母親と子供がうま
くとらえられている。着色は大胆
だが深い味わいを感じた。熊谷光
恵「飛翔」鳥は本当に魅力あるモ
チーフである。鳥のいろいろの動作
を組み合わせた群像となつてい
る。よく観察し、よく表現してい
る。色もまとまつた。然し全体の
感じは飛翔でなくて重たくなつて
いないだろうか。〈評〉砂田友治
伊藤勝美「或る状況II」強く訴
えてくるものがある。構成配色が
成功。マチエルに工夫を期待。輪

回も情緒深い教会の屏に人物を配して古い街のただすまいをとらえているが何か少し食いたりないものしさがある。清田操「私はこどかしさがある。」恐怖にとりつかれた自画像か。そういうものが出ているように思う。変っているところが面白い。山本美登里「鎮魂歌」死者への貢歌といった心情の表現だと思う。これはなかなか練達の画面構成である。下に横たわる死者などうまくかけているし、左右の火炎の如きもの、又なかの何かの象徴など凡て効果的だと思った。吉田康子「五つのスペース」五つのスペースに人物群像がうまく纏められた。色も形も単純化されてよく、線なんか面白いと思つた。沢由紀「もう一人の私」自分といろいろな分身を並べて或いは離れてから心地を表現した面白い

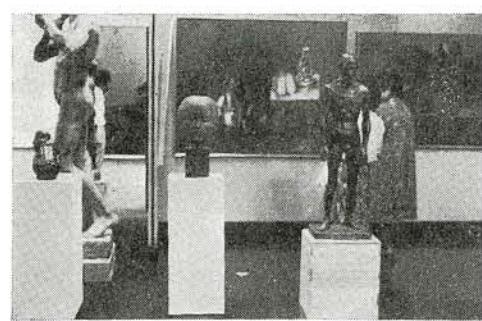
島進一「時のない時間」北海道新聞
聞社賞 社会心情への刺激が新鮮。無気味さは意図であろう。脇坂裕子「秋の声」柔らかい色調や構成が魅力。作者の美的センスを惜しみなく出してほしい。外山ムツ子「日曜日の倉庫」奨励賞・新会友 生きていることの深部に触れる感じがある。きびしい構成やマチエルに魅せられる。佐藤良紀「陰げる漁港」構図や色調等絵画の基本的な要素が、よく整理されてまとまっている。更に実在感の強調を期待したい。深瀬寛「P.A.D.O.C.K.」あたたかい人間味を感じた。それぞれの表情をまとえた力量をかう。加藤寛之「街」柔らかくつましい美しさが、構成や色調選択のきびしさを包包、好感触をもつ。佐々木信吉「ヂゾーサマ」素朴な美しさをねらっているのであろうか? 表現意欲の強さがよい。隅田重明「扉」幾度も描いたテーマか? 色調に苦心のあとがうかがわれ、重厚な訴えを感じる。佐々木由明「椅子に坐る裸婦」手足等末端部で力を抜いたことが手足等末端部で力を抜いたことが、全体の調和となり、素直な美を感じさせている。高密度がほしい。

大橋弘子「蒼い月」絵具の扱いが緻密、詩情も感じられる。大作はやや散漫、追求を期待する。南条暁子「わかれ道」特異な個性的着想や、マチエルを大事に扱うこと

で強い訴えが出ている。大泉康子「時」作者の心情がにじみ出ている。構成や絵具の扱いが緻密で、

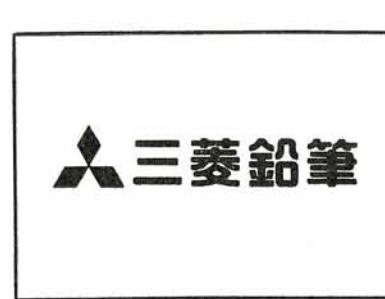
絵にロマンがある。後藤敬子「人形とマンドリン」散漫にならずよくまとめている。構成色調等にやや深さがほしい。平間文子「アジサイ」しっかりと描けて迫力がある。「アジサイの木ではない」という鑑賞者のつぶやきは、気にする必要がない。砂田陽子「黒の構図」佳作賞・新会友 高い密度、大胆とも思える構成や色調でありながらナーブな魅力が溢れてい。〈評〉佐藤哲夫 楽しんで描いているよう、心のはずみが感じられる。斎藤矢寸子「自画像」大まかな伸々とした画面はよい、色もみずみずしく美しいが主題をもつと強調したい。菊地章子「飛ぶコマ」自由な発想が見る者を楽しませてくれるが、ややおしゃべりな感じだ、画面を整理すると強い絵になろう。高橋正敏「阜上風景」手慣れた画面だが、色もしっかりとよいが画面づくりに凝らないよう注意すべきだ。類型を感じさせるのが惜しい。

山口一子「あの時私は」茫とした画面に作者のやさしい詩情を感じる。人物の描き方など観念的でなく面白い。原田恭子「牛骨のある静物」キャラリアを感じさせる。流動感はあるがややうるさい、もつと整理されるとよい。成田勇吉「騎上の人」力強のある作家で、市民会館での個展も重厚で堂々としていて敬服した。この絵の下方



の暗さが画面を重いものにしていないだろうか。中丸茂平「郷里の風」いつも露の面の絵だが今回はや深さがほしい。平間文子「アジサイ」しっかりと描けて迫力がある。「アジサイの木ではない」という鑑賞者のつぶやきは、気にする必要がない。砂田陽子「黒の構図」佳作賞・新会友 高い密度、大胆とも思える構成や色調でありながらナーブな魅力が溢れてい。〈評〉佐藤哲夫 楽しんで描いているよう、心のはずみが感じられる。斎藤矢寸子「自画像」大まかな伸々とした画面はよい、色もみずみずしく美しいが主題をもつと強調したい。菊地章子「飛ぶコマ」自由な発想が見る者を楽しませてくれるが、ややおしゃべりな感じだ、画面を整理すると強い絵になろう。高橋正敏「阜上風景」手慣れた画面だが、色もしっかりとよいが画面づくりに凝らないよう注意すべきだ。類型を感じさせるのが惜しい。

山口一子「あの時私は」茫とした画面に作者のやさしい詩情を感じる。人物の描き方など観念的でなく面白い。原田恭子「牛骨のある静物」キャラリアを感じさせる。流動感はあるがややうるさい、もつと整理されるとよい。成田勇吉「騎上の人」力強のある作家で、市民会館での個展も重厚で堂々としていて敬服した。この絵の下方

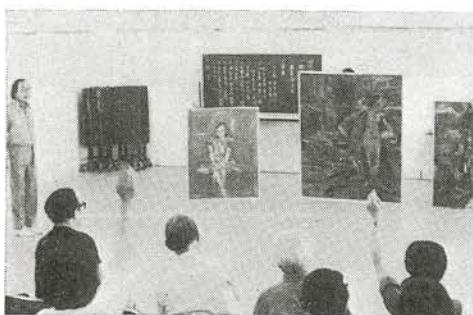


の暗さが画面を重いものにしていないだろうか。中丸茂平「郷里の風」いつも露の面の絵だが今回はや深さがほしい。平間文子「アジサイ」しっかりと描けて迫力がある。「アジサイの木ではない」という鑑賞者のつぶやきは、気にする必要がない。砂田陽子「黒の構図」佳作賞・新会友 高い密度、大胆とも思える構成や色調でありながらナーブな魅力が溢れてい。〈評〉佐藤哲夫 楽しんで描いているよう、心のはずみが感じられる。斎藤矢寸子「自画像」大まかな伸々とした画面はよい、色もみずみずしく美しいが主題をもつと強調したい。菊地章子「飛ぶコマ」自由な発想が見る者を楽しませてくれるが、ややおしゃべりな感じだ、画面を整理すると強い絵になろう。高橋正敏「阜上風景」手慣れた画面だが、色もしっかりとよいが画面づくりに凝らないよう注意すべきだ。類型を感じさせるのが惜しい。

山口一子「あの時私は」茫とした画面に作者のやさしい詩情を感じる。人物の描き方など観念的でなく面白い。原田恭子「牛骨のある静物」キャラリアを感じさせる。流動感はあるがややうるさい、もつと整理されるとよい。成田勇吉「騎上の人」力強のある作家で、市民会館での個展も重厚で堂々としていて敬服した。この絵の下方

室内(III) ユニークな仕事です。積極的な自己表現を期待します。
説明過多にならないよう。中西
孝亘 「偶像と静物」画面に張りが
あって美しい。昨年より密度が増
したように思います。より一層の
精進を!。佐々木治 「卓上静物」
達者な筆づかいでよくまとまつて
いる。色調もブルー系で統一され
て美しいが、物が少し多すぎない
だろうか?。 **(評)** 竹岡羊子
浅川茂 「廃物」配置構成もよ
く、上部鉄管の折れ曲った部分は
心にいく配慮。質感の表現は一様
で変化がほしい。伊藤孝三 「少年
の日」線描の軽やかな画面、面白
いがもっと描き込んだものも見度
い。江利山義美 「貯木場」元来力
強い作品になる筈の構成が、細部
の説明に過ぎて弱められたのは先達
念。黒田邦裕 「群像 80—A」先達
に学ぶのはいいとして、発表はも
っとオリジナルに。西辻恵三 「と
り」青が美しく力量ある作家。し
かしついつか来た道、新味がほ
しい。渡辺通子 「眠る女」色感、ボ
イス共に賛成。だが人体各部分の
つながりが無く、一体としての把握
力がほしい。清水昌光 「ひと」
さしあたつて物が描けること、そ
してそれに託して何を語るか。:
菊地ひとみ 「静物」構成構図に対
する意図賛成。個々の表現、色彩
の効果など未完。片倉久美子 「リ
ズムのある空間」題名に見る作者
の意図は果たされている。今少し力
強さを。高木多美子 「母と子」素
朴なよさ、だがそれだけでないも
のも。棚橋永治 「室内」優しさの
中に強靭なものもあり、更に緊張感
度が高まればこの白はより美しく

なろう。恩田信行「それから80」
「自分の世界をもつてゐる。技術もしつかり、安心して今後を期待。斎藤隆博「虚—A」や、諱舌、主題表現の焦点をきめ、語る意味の深まりを工夫。高島昌子「ある群像」個々に力を入れすぎでは全体の連帯感が失われよう。パックは単に余白でない事にも留意。友井勝草「これらた森山」新会友「雪上むらがる鳥に託す」の北国の詩情、力感のある佳作。
中村静枝「献花」今まで「蝶」を主題とした表現主義的傾向の絵だったが、「献花」は更に抽象化された。赤の形態に変化があり流動的な面白さが加わった。藤井垣哲之助「少女の領分」奨励賞
志号の室内風景をよくまとめていた。綺麗ごとにならないよう絵画の問題について柔軟な心の動きが必要だ。黄土色がすつきしりと青が画面に散らばっているのが目につく。道添宗教「YOKO・V」奨励賞
「一見中間色の美しさを思わせるが、色が混ざり過ぎて人体の形をとらえてほしい。福井バク「人と鳥」色感がいい。ナイフでひっかきたい気持もわかるが、筆の方が冷たくなく弾力ある線が生まれるだろう。若さの発揮を期待する。木村富秋「Y肖像」奨励賞・新会友 入選が小さなものが、になつたのは残念。人物の軽快さがあつて雰囲気は出ているが、形のとらえ方が弱い。市川洋一「牛雲NO・80(A)」発想の面



白さはあるが、色が走り過ぎた感
あり。牛の形があまい。デッサン
の研究によつて一だんと良くなる
だろう。田崎謙一「孔雀明王図」
力量ある作家。構成力もあるが、
手法がややもすると芸芸的な画面
になりはしないか。福井のばら
「人物(三)」画面のおさまりはいい
が、絵が黒すぎた。画がぼてぼて
にならないよう絵具を置いてほ
しい。今西直人「牛(B)」大胆な
構図。砂を用いたマチエールが重
くるし。凝ることも必要だが、
自分の絵だと信じ込んでいるもの
も、思い切つて捨てることも大切
です。新しいものが見つかること
もあるのです。今後を期待した
い。師は、自然と古典にあると思
うのです。佐藤惠都子「女たちの
部屋」黒の研究をしてほしい。人
体の腹部の光の当った白が、白す
ぎはしないか。黒の愛着もいい
が、赤や青や黄の美しさなどの素
直な感動を画面に取り入れたら別
にいい。

の世界が開けることもあると思うのです。考えすぎて、自分にとつて本当に必要なものを逃がさないように。**中谷喜幸**「室内風景」写真家の中谷喜幸の態度は賛成。画面の右側の暗さが絵を狭くしてはいないのか。**田中ヨミス**「天幕」面白さはある。はつきりした形でうたいあげてほしい。**中橋修**「投影」簡潔な画面。棚橋麗子「晚秋雨」筆が走ります。ている。中景と背景の関連に一考を要する。**細井四治郎**「静かなる森」手馴れた風景画。風景画では、一番難かしく大切なのは地面です。
（版画）——木版
三寺良司「夜明け」色調を統一、整理に一工夫ほしい。アジャサインの方が、画面を大きめに見せて安定感あると思いますが、如何でしょうか。爽やかな作品です。**瀬戸節子**「遊園地」面倒な構図で、造物を楽しく見せて構図に成功しているが、色彩が不鮮明、雲が調和していない、又回転木馬にだけ黒板をたたいた黒版を、ほかの必要部分にのみ使うと、画面が引きしまる。**木の瀬博美**「孤」今年の作品は例年のように弱い、鳥と人物に関連性がない。菱和子「潤洽」細密描写に稀薄、人物にも表情がほしい、構成に再検討して意図するものを使いまる。力がある作者と見るが、余りに細かい作風で味のない、弱い作品になつたと思います。表現の傾向は別にして、彫りの巧みさには感心します。**田口丞二**「樹間(3)」木の作品である。只左右の樹木二本が画面の側面から、等しい間隔から

札幌時計台ギャラリー

—洋画材料専門の店—

OAK画材

札幌市中央区北1西3仲通
TEL 261-8971

札幌市中央区北1西
TEL 361-8971

 Scholbein アーチストピグメント

(ナリバイン専門家用薬)

あなたの手で、油彩画、フレスコ画
テンペラ、日本画、水彩等の古典画法
を再現できます。

—詳しくは最寄りの画材店で—
ホルベイン工業株式会社
北海道地区総代理店(株)布川!!

洋画材料

大丸藤井
セントラル
札幌・南1西3

う注意が必要。小山澄子「潮騒」モデルを忠実に写しているようを見えるが、それに気をとられ、緊張感に欠けているのが惜しい。本間清子「わたしはここにいよう」木彫の経験があまりないようだが、それだからこそ木という素材の強さを、量感の強さに出来たのだと思う。この素朴さを失わないでほしい。増田邦博「来夢來女」型抜きため、土の力を殺してしまったのが惜しまれる。堀 悅「頭部」素直な作品だが、調子が単純で緊張感にとぼしい。佐藤公毅「立女」素材の温かみをそのまま生かした素朴な木彫。ただし両腕の切り方がまずかったのが惜しい。藤沢紀世安「NDBUO」頭像を一つのかタマリをしてのとらえ方はいいのだが、表面を同じくし、べらでならしてしまったので緊張感が失われてしまった。長谷川育代「立てる裸婦」よくまとまった力作だが、表面の処理にとらわれず、人体のもつ生命感、躍動感を見てほしい。阿部俊夫「春」佳作賞。中国の俗を思わせる木彫の佳作。素材をよく生かし、細部にとらわれず大胆に構成している。次の作品が期待される。田中隆行「トルソ」一見荒々しく見える肉付けとデフォルメだが、造型的の神経がゆきとどいている。右脚の切り方に一考を要す。阿部祐司「トルソ」一見素朴に見えるのだが、あまり細部を気にとられず、大まかにノミを使ってほしい。佐藤雄二「老人の首」木彫で首を作るのはむづかしいのだが、よくまとめた。ただし表面を万辺なくヤスリでならしせっかくの緊張感を弱め

たのは惜しい。台との調和もバラ
ンスを欠いた。川辺由紀「うすく
まる女」全体を大きなマッシュとして
てとらえ、量感ある力強い作品で
ある。

ツクな構成の中に繊細な感じを持たせ、うまくまとめている。量感と質の関係を吟味することも大切である。**土居龍子**「**バッヂ・メダリオン**」織り、色、構成ともに問

ることなく確かな技術の上に立脚した内面的な追求も期待したい。工藤勉「一融」材質を時間的な流れの中におき、作者の積極的な意図が感じられる。次の仕事に期待したい。

出来ないものかと思う。吉田ナツ
「くしめ文様花生」形も悪くない
がしめの文様は面白い唯色調の暗
いのが残念。大室ヒサ「北国之詩」
形体は認めてよい色調の暗いのが

したのは惜しい。台との調和もバランスを失いた。川辺由紀「うすくまる女」全体を大きなマスクとしてとらえ、量感ある力強い作品である。

（工芸）
土屋チヨ「型染帯地」しっかりと感じのよい作品となつた。技巧にとらわれず、現代的な造型化へのアプローチを期待する。野崎南風子「Cross Over」織と色を計算した構成は、単調さを防ぎ落ち着いたまとまりのある作品となつた。関原範子「韜鑑」奨励賞七宝の技法を駆使し、新しい素材と効果的に再構成させ、現代生活にマッチしたものとなつた。見る者に幻妙の効果を期待させる作品である。大屋啓子「タピストリー」大胆な構成、ロープワークへの意欲的な取り組みが感じられる。今後個性的な作品への発展を期待する。根井幸子「型染帯地」型染の手法をうまく生かした作品である。地道な努力に、大観な造形表現を期待したい。庄司光江「アジサイ」薔薇染の確かな技法を感じさせる作品となつた。高度の技術にふさわしい構成の追求が望まれる。阿部憲司「かた雪わたり」新会友 風土性を感じさせる作品となつてゐる。自分のテクニックだけにたよることなく、創造的な新しい試みを期待する。武田文彦「遊への道・IV」木材の特性をうまく生かし、個性ある作品となつてゐる。田中和子「樹間」染の技術にとらわれることなく、構成的にも造形性豊かな作品への意欲が見られる。一層の研鑽を期待する。佐々木淳一「夏径」ダイナミ

（評）本田明二
（評）立川岩亮之
（評）寺岡和子
（評）勝代
（評）藤枝勝雄
（評）勝広
（評）伊藤啓子
（評）奥谷扶美子
（評）



工藤勉「一融」材質を時間的な意図が感じられる。次の仕事に期待したい。

〔評〕折原久左衛門・中川真一郎
塩入稔「練上象嵌壺」ロクロ、象嵌技法、共に充分だと思う今後施釉して一層効果ある研究を望む。佐久間由紀子「衆人環視」形体色調いづれも見事である文様の配置が特に目立つていて力作だと思う。佐藤孝子「象嵌線文扁壺」象嵌の技は充分認められるが壺の形体今一步というところ今後に期待するところ大きい。磯貝登「鉄砂條刻文花生」条刻技法と色調は共によいが形体が單調で一層努力してほしい。秋田清陶「四方三角文花入」色調文様の配置共に良いが手捻り成型にしても今少し薄手に

出来ないものかと思う。吉田ナツ「くしめ文様花生」形も悪くないがしめの文様は面白い唯色調の暗いのが残念。大室ヒサ「北國の詩」形体は認めてよい色調の暗いのが難題名を陶芸品らしいものにしてほしい陶芸作家として初步の者が心してほしい。矢野博子「灰釉壺」形体単純だが灰釉の流れが効果的で今後の努力に期待したい。松岡五郎「灰釉花生」口作りが面白く釉調も悪くない今一步の感あり。諫早治雄「アツシングマット釉角壺」形体文様共に単調だがますますとして釉剥げのあるのが残念亦釉色調も悪くない今一步努力してほしい。坂口桂一郎「銅釉花瓶(2)」形体美術展展出品としては不満だが釉色釉調共に良い之れを利用して大作に挑めました。武田律子「辰砂釉大花生」形にまとまりがない辰砂釉としているが色調が悪く今後一層の努力を望む。井上妙子「作品(1)」釉調には不足がないが形が不適。黄田恵子

出来ないものかと思う。吉田ナツ
がしめの文様は面白い、唯色調の暗
いのが残念。大室ヒサ「北國の詩」
形体は認めてもよい色調の暗いのが
難題名を陶芸品らしいものにして
ほしい陶芸作家として初步の者が
心してほしい。矢野博子「灰釉壺」
形体単純だが灰釉の流れが効果的
で今後の努力に期待したい。松岡
五郎「灰釉花生」口作りが面白く、
釉調も悪くない今一步の感あり。
諫早治雄「アッシュ絞マット釉角壺」
形体文様共に単調だがまずまずと
して釉剥げのあるのが残念。赤釉色
に今一步努力してほしい。坂口桂
一郎「銅釉花瓶(2)」形体美術展に出
品としては不満だが釉色釉調共に
良い之れを利用して大作に挑まれ
たし。武田律子「辰砂釉大花生」
形にまとまりがない辰砂釉として
は色調が悪く今後一層の努力を望
む。井上妙子「作品(1)」釉調には
不足がないが形が不満。横田恵子
「作品(D)」形、色調共に悪くな
い今少し暗らい作品を望みたい。
上田千代子「まるい壺」初步の作
品の焼成焼成陶の着想として焼成技
法が伴っていない。伊藤紀久子
「海の詩」色調は良いが題名に不
満形もまずまずといえよう。羽生
田洋子「灰釉花瓶A」形、色調共に
良くない亀裂文は少々面白いが
形体との調和に難あり。野田静江
「灰釉花生」形、色調共に悪くな
い今後に期待する。金子章「胞」
に飾りものとしては不満。

〈評〉山岡三秋

個展案内

- 渋谷栄一個展 11月 ギャラリー・レティナ（札幌）
- 川本ヤシヒロ作品展 11/1~11/30 喫茶ミドリ（札幌）
- 12/1~12/30 喫茶竹庵で小品展（鉄路）
- 原 義行個展 11/11~11/16 大丸藤井画廊（札幌）
- 一原原有徳個展 11月 サンシャイン（東京）
- 12月 NADA画廊（札幌）
- 12月 羊画廊（新潟）
- 竹岡羊子個展 10/27~11/2 東亜画廊（福岡）
- 野本 静個展 11/10~11/15 時計台ギャラリー（札幌）
- 山岡三秋個展 11/6~11/11 札幌東急で秀作展（札幌）
- 4月 札幌グランドホテル個展（札幌）
- 高橋靖子個展 11/10~11/15 時計台ギャラリー（札幌）
- 木村訓丈個展 11/6~11/11 いしい画廊（函館）
- '81.2/5~3/4 ウィーン・アム・ラーベンシュタイク ギャラリー（ウィーン）
- 鈴木 伝油絵個展 11/13~11/18 ④今井デパート3階（小樽）
- 堀内忠男個展 11/17~11/22 時計台ギャラリー（札幌）
- 水野スマジ個展 11/24~11/29 時計台ギャラリー（札幌）
- 国松 登個展 11/31~12/6 時計台ギャラリー（札幌）
- 箱根寿保個展 12月末 函館ギャラリー（函館）
- 山口市個展 12/3~12/13 時計台ギャラリー（札幌）
- 望月正男個展 3月下旬画廊（東京）
- 3月 時計台ギャラリー（札幌）
- 5月 刻刀
- 押川清作陶展 12/2~12/8 ささき画廊（鉄路）
- '81.2月 札幌東急（札幌）
- 離波田龍起他二人展 12月 東邦画廊（東京）
- 武田忠子・坪野秀子・堀川勉個展 12/15~12/20 時計台ギャラリーA・B・C室（札幌）
- 西村貴久子個展 3月 楽画廊（東京）
- 菅野充造水彩展 11/25~11/29 さくら画廊（東京）
- '80.2/9~2/14 個展 楽画廊（東京）
- 福井親子4人展 12/18~12/23 アートギャラリーさいとう（札幌）
- 福井正治個展 12月 苦小牧ギャラリー（苦小牧）
- 佐々間恭子個展 3月末予定（室蘭市）
- 岩沼秀雄個展 3/1~3/31 画廊喫茶「ウィーン」（帯広）

道立近代美術館案内

- マックスクリンガー展 10/16~11/16
- 第55回道展 11/1~11/16
- 北海道抽象派作家展 11/19~11/27
- 第13回道美展 11/29~12/7
- 第35回行動美術展・札幌巡回展 12/13~12/21
- 子どもと親の美術館'81 1/6~2/8
- 第11回北海道教職員美術展 1/6~1/11
- 第4回北海道現代美術展 1/18~2/6
- 菊地精二展 2/14~3/1

三岸好太郎美術館案内

- 三岸好太郎の「オーケストラ」展 10/2~11/30
- 平常展 12/2~3月末

く、毎年くり返す事でも私にとっては一つ緊張、興奮の内に幕が開かれ、数々の作品に感激するくり返りです。かつて考えた事もない協会賞受賞という、うニユースの思いがけない事だけ戸惑い、これでした。このような賞を頂くに恥り、これからも自分しさを失わずに作品づくりに励んで行きたいと考えております。改めて選考に当たって下さった会員諸先生方にお礼を述べさせて頂きます。

● ひとの親になって数年。子供の前をまつりながら、心付いてみると、歩きの方も交えて……。親はただ子の後

なバッハの音楽を聞いていた。つい人生を思いたくなるあまりに私の的な午後のコマ。

● 十一月十九日より、道立近代美術館にて北海道抽象作家展に招待出展（札幌・八木保次）

● 第35回展は盛会裡に終りましたが、

● 一生の方々の御相談から始まりました。来年は五点以上の入選を期待しています。札幌・小野寺紀子

● 水彩の出品者は相変わらず少なくなく残念ですが、今年は一人増えて三人の作品を陳べる事が出来ました。来年は5点以上の入選を期待しています。札幌・池田正之助

● 七月十八日から八月三十一日までイタリア、フィレンツェ市のフィレンツェ国立美術館の夏期美術特別講座を受講しました。授業での見学、土日は各自のアトリエ訪問、学校見学、土曜は各自のプランで行動といふ内容で陶酔を勉強されました。この学校で予定されているとのことで

● 札幌・小野寺紀子

● 札幌・鈴木智子

● 札幌・八木伸子

● 札幌・山口良子

● 札幌・八木伸子

● 札幌・山口良子

● 札幌・八木伸子

● 札幌・八木伸子